

巻 頭 言



KY、など

(社)日本技術士会北海道支部 副支部長
技術士（建設／総合技術監理部門）

能 登 繁 幸

KY：京セラの略。キルギス語のISO 639-1 言語コード。アメリカ合衆国ケンタッキー州の略。札幌テレビ放送旭川放送局の識別信号（JOKY-TV）。某製造会社の潤滑剤。朝日新聞珊瑚記事捏造事件にて落書きされたイニシャル。「今年も宜しく」という意味。

とまあいろいろあるが、ひと頃「空気を読めない人」の略語としてすっかり有名になったKY。その場の雰囲気や状況を察することができない人、相手の顔の表情や仕草から真意を読み取れない人、という意味で、鈍くてのろまでバツカみたい、という感じだ。日本人には「あうんの呼吸」があって、場の「空気を読んで」他の人に同調し、波風立てずに何事も無事に終わらせる。これがオトナというもの、というようなチマタの雰囲気がある。

がしかし、それがホントにいいのか。例えばある会議があったとしよう。出席者の中の権力者と見られる人（例えば社長）が何か言う。仮にそれに対して反論があったとしても、場の空気がおおむね権力者の意見に同調しているようなら、反対意見を控える。どちらが妥当な意見か、は関係ないのだ。場の空気を読めないことが重要なのだ。かくして、有意義な議論を戦わせることなく会議が終わる。はじめに結論ありき、斬新な意見、建設的な意見、斜に構えた意見？などが俎上にあがることもなく会議が終る。これで「発展」とか「改革」が望めるだろうか。

「ちょっと待て！」と反論、異論、暴論を吐き、和やかな会議に一石を投じ、波風立ててかき回し、議論を促して事実を見極め妥当な収束を得る、それが大事なのではないか。工場や現場作業などにKY活

動なるものがある。「危険」と「予知」の頭文字で、「危険予知活動」の略である。災害ゼロを目指すためにも、「波風立てずに空気を読んで」ではなく、「大いに波風立てて」議論するKYなる人が必要なのではないか。

ついでに思いつくまま言わせてもらおうと、…。

「格差社会」がなぜ悪いのだ。努力した者が報われないなら問題だが、ギリギリのように遊び呆けて、今さら格差社会を非難するのはおかしくないか。

「男女平等」のはずなのに、女性の経歴紹介欄に生年月日が記載されていないのはどういうワケだ。男性の場合はすべて記載されているではないか。

「国家の品格」がベストセラーになった後、やたら「〇〇の品格」という題名の本が出回っていないか。それも次々とベストセラーになる。民度が低すぎないか。

「賞味期限」とは何だ。その期日までおいしくいただけます、という意味ではないのか。その期限が過ぎても食べられるのだらう。我が家の冷蔵庫に、期限切れがヤマほど眠っているぞ。ときには消費期限を越えているモノすらあるぞ。賞味期限を「だまして」改ざんした行為自体に問題が有るのであって、賞味期限を超えて売っても、買ってもいいんじゃないのか。

自分で考えなくなった日本人。人気取りに走る政治家。愚民政治に嫌気がさす。権利も義務も、そして自由と平等も、「良識ある国民」ならばこそのモノなんだがなあ。選挙権も被選挙権も、「良識度試験」合格者だけにしてもらえないか。